

医学教育における情報リテラシーコースのアンケート調査について —SNS とインターネット上のトラブルについて—

赤間 亮一^{1),2)}, 中谷 多哉子³⁾, 村上 祐子⁴⁾, 辰己 丈夫³⁾

1) 日本歯科大学 2) 放送大学大学院 3) 放送大学 4) 東北大学

akama-r@tky.ndu.ac.jp

About a questionnaire survey for an information literacy course in medical education -About trouble in SNS and on the internet-

Ryoichi Akama^{1),2)}, Takako Nakatani³⁾, Yuko Murakami⁴⁾, Takeo Tatsumi³⁾

1) The Nippon Dental Univ. 2) The Open University of Japan, The School of Graduate Studies

3) The Open University of Japan 4) Tohoku Univ.

概要

医学教育における情報リテラシーコースでは、医療現場で必要とされる ICT スキルの向上が主な講義内容となっている。しかし近年、既存の講義内容では不十分な状況が確認されている。特に、Twitter や Facebook などに代表される SNS 利用者が、不適切な内容をネット上にアップすることによるトラブルが増加しており、大きな社会問題となっている。医療では、患者のプライバシー保護など職業倫理の観点から、これらトラブルの発生防止は最重要課題のひとつである。そこで、既存の講義内容を改善する必要性から、現在の学生を取り巻く状況を把握するため、従来行っている ICT に関するアンケート調査の設問や質問項目の見直しを図り、新規作成したアンケートにて調査を実施した。

◎キーワード 情報リテラシー, アンケート調査, 医学教育

1 はじめに

日本歯科大学東京短期大学では、平成 17 年度より情報リテラシーコースを開設し、歯科技工士と歯科衛生士が、歯科医療で必要とされる ICT の知識や技能などの習得度向上を目的とした講義を行っている。そして、学生の ICT 習得度を把握する目的でアンケート調査を実施し、その結果から平成 21 年度にカリキュラムの変更を行った [2]。しかし近年、SNS に端を発したトラブルが社会現象として取り上げられ、連日のように報道されており、あらためてネット上でのマナーが重視されるようになった。以前より、情報リテラシーコースでは ICT スキルだけではなく、情報セキュリティや著作権、肖像権といった内容を講義で取り扱ってきたが、現在は情報倫理に関しても大きく取り上げていく必要性を感じている。そこで今回は、平成 29 年 4 月に実施した授業前アンケートと、6 月に実施した授業後アンケートの中から「インターネットでの著作権や情報倫理」と「職業の情報倫理」への意識、「SNS の利用状況」と「インターネットでのトラブル」についての設問とその結果を中心に報告する。

2 アンケート調査について

2.1 概要

情報リテラシーコースの講義は、1 回 80 分で全 8 回を日本歯科大学生命歯学部のパソコンルームにて行っている。また、従来は質問紙形式によるアンケート調査を行っていたが、平成 29 年度より LMS (Moodle) の機能 (フィードバック) を利用した web 形式に調査方法を変更した。アンケート調査は本コースを受講する学生を対象とし、授業前 (初回講義前) と授業後 (最終講義後) に匿名にて実施した。また、本調査は日本歯科大学東京短期大学の倫理審査で許可を得て行っている (倫理審査番号: 東短倫-00195)。

2.2 調査対象

平成 29 年度に日本歯科大学東京短期大学 (以下、本学) へ入学した歯科技工学科 27 名 (男性 6 名、女性 21 名)、歯科衛生学科 74 名 (すべて女性) の合計 101 名 (現役率 92.1 %) を調査対象とした。

3 授業前アンケート

3.1 設問内容

以下に授業前アンケートの設問内容を示す。なお、質問項目が同一の設問はまとめて表記した。

- インターネットでの著作権や情報倫理（違法ダウンロードや著作物の無断使用など）について
 - 気をつけている
 - 気にしていない
- 職業の情報倫理（職務上知り得た患者さんのプライバシーを外部に漏らさない）について
 - 知っていた
 - 知らなかった
- LINE の利用について
- Twitter の利用について
- Instagram の利用について
- Facebook の利用について
 - よく利用する
 - ときどき利用する
 - ごくまれに利用する
 - 利用していない
- SNS への 1 日のアップ回数について ※発言（リツイートを含む）、画像や動画などの投稿 1 回を 1 カウントとする ※閲覧のみはカウントしない ※LINE などのチャットは除く
 - 10 回以上
 - 7～9 回
 - 4～6 回
 - 1～3 回
 - 0 回
- インターネットで経験した（被害を受けた）トラブルについて ※複数回答可
 - SNS などでの書き込み炎上
 - 書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめ
 - ウィルス感染
 - 個人情報の流出
 - 不当請求（ワンクリック詐欺など）
 - 誘い出しによる性的被害や暴力行為
 - ネット依存による健康被害
 - その他
 - 経験がない

3.2 調査結果と考察

以下に授業前アンケートの調査結果を示す。なお、アンケート調査の回収率は 100 % であった。

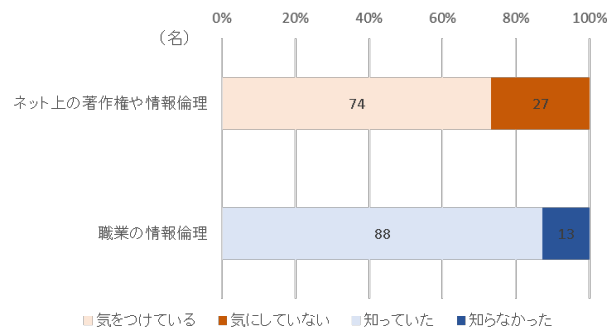


図 1 ネット上の著作権や情報倫理と職業倫理への意識（授業前）

3.2.1 設問 1 と 2

設問 1 「インターネットでの著作権や情報倫理について」と設問 2 「職業の情報倫理について」の調査結果を図 1 に示す。設問 1 の質問項目への回答は、学生の主観によるものである。よって、本人が「気をつけている」としても著作権を侵害している場合や、情報倫理を犯している可能性がある。結果は「気をつけている」が 73.3 %、「気にしていない」が 26.7 %となり、約 1/4 の学生が著作権や情報倫理に対する意識が低かった。

また設問 2 では、入学直後における職業の情報倫理に対する知識の有無を確認した。結果は「知っていた」が 87.1 %、「知らなかった」が 12.9 %となり、入学前から医療人としての意識を持つ学生が多数いることが分かった。職業の情報倫理については講義で扱う内容なので、最終的には受講する全ての学生が周知することになる。

3.2.2 設問 3 から 6

設問 3 から設問 6 「SNS の利用状況について」の調査結果を図 2 に示す。わが国で普及している代表的な SNS についての利用の有無と使用頻度について調査した。各 SNS の利用率は、高い順に LINE (99.0 %)、Twitter (92.1 %)、Instagram (75.2 %)、Facebook (20.8 %) となり、昨年のデータと同様の傾向を示した [5]。しかし、この順位は総務省が公表しているデータ (LINE、Twitter、Facebook、Instagram の順) とは一致しない [4]。ユーザーから支持される SNS の種類は流動的であり、その利用率のデータをとるのであれば、単純に世代別という大きな括りではなく年度毎に細かくデータを取らなければ正確な状況を把握できないことを表している。また、使用頻度の高さの順位は利用率の高さのそれと一致した。

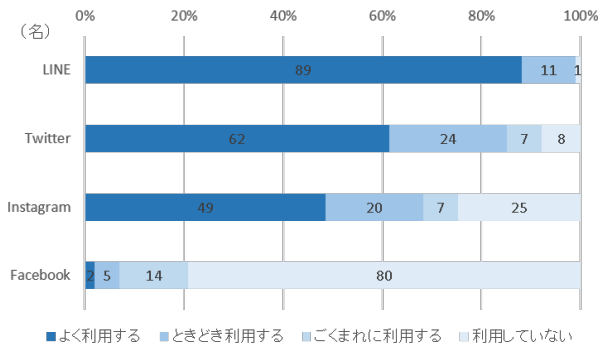


図2 SNS 利用状況（授業前）

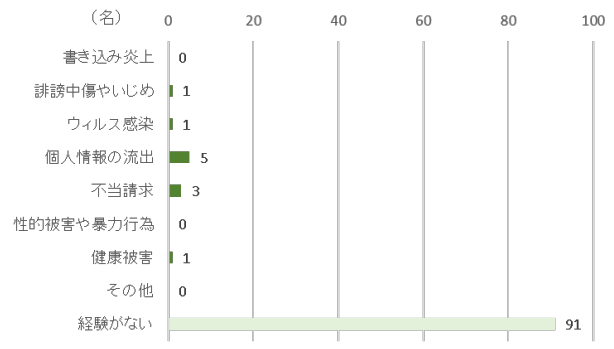


図4 インターネットで経験したトラブル（授業前）
※複数回答可

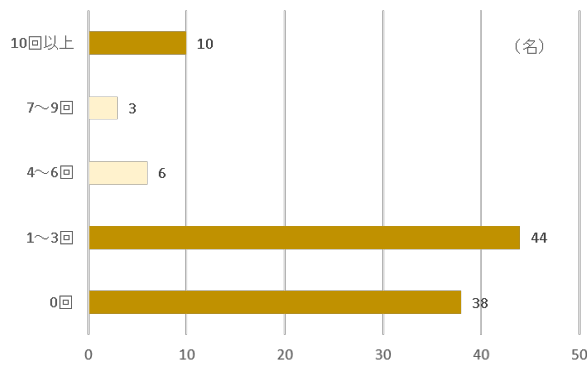


図3 SNS への1日のアップ回数（授業前）

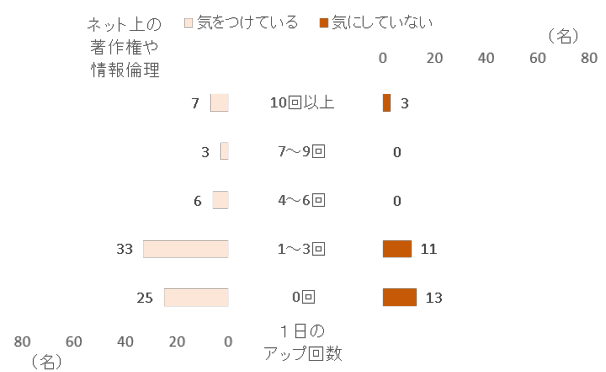


図5 ネット上の著作権や情報倫理とアップ回数との関係（授業前）

3.2.3 設問7

設問7「SNS への1日のアップ回数について」の調査結果を図3に示す。1日アップ回数は、0回（37.6%）、1～3回（43.6%）、4～6回（5.9%）、7～9回（3.0%）、10回以上（9.9%）となった。情報の収集を目的としたSNSを見るだけのグループ（0回）と少数回だけアップするグループ（1～3回）、そして、若干名ではあるがヘビーユーザーに相当するカテゴリに分類されるグループ（10回以上）がそれぞれ突出している。

3.2.4 設問8

設問8「インターネットで経験した（被害を受けた）トラブルについて ※複数回答可」の調査結果を図4に示す。質問項目に列記した具体的なトラブル名は、総務省が公表している「インターネットトラブル事例解説集」を参考とした[3]。何らかのトラブルを経験した学生は9.9%（10名）で、このうち複数回答者が1名いた。本学へ現役で入学した学生の、スマートフォンを持ち始める平均年齢は14歳である[1]。よって、入学までに4年程度はインターネットを利用しており、その期間中に経験したトラブルということになる。

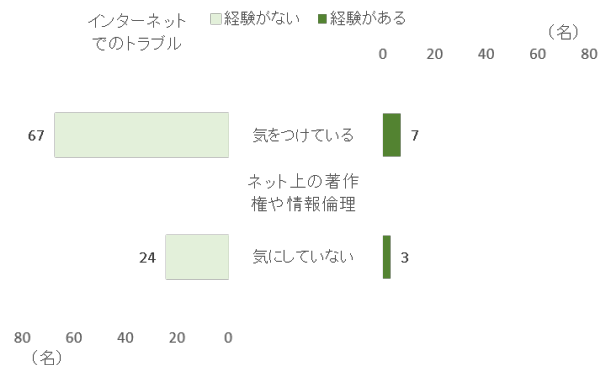


図6 ネット上の著作権や情報倫理とインターネットでのトラブルとの関係（授業前）

3.2.5 設問間の関連性について

設問1と設問7との集計結果を図5に示す。また、設問1と設問8との集計結果を図6に、そして、設問7と設問8との集計結果を図7に示した。

授業前アンケートの分析では設問1、7、8の間に相関関係があると仮定し、クロス集計後、各々の関連性についてカイ2乗検定を用いて検定したが有意差は認められなかった。つまり、著作権や情報倫理に対す

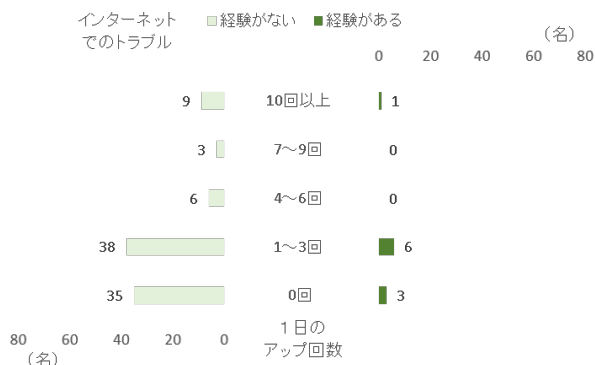


図7 1日のアップ回数とインターネットでのトラブルとの関係（授業前）

る意識の低さや SNS へのアップ回数の多さは、インターネットでのトラブル遭遇に直接影響するとはいえなかった。また、今回の授業前アンケート調査では、トラブルを経験した経緯やシチュエーションまでは質問項目に入れておらず、どのような状況でトラブルに遭遇したのか、というところまで調査する必要性を感じた。

4 授業後アンケート

4.1 設問内容

以下に授業後アンケートの設問内容を示す。

- インターネットでの著作権や情報倫理（違法ダウンロードや著作物の無断使用など）について
 - 以前から気をつけていた
 - 授業を聞いて気をつけるようになった
 - 今も気にしていない
- 職業の情報倫理（職務上知り得た患者さんのプライバシーを外部に漏らさない）について
 - 理解している
 - まだ理解できていない
- SNS へのアップロードする内容について（アップロードの対象は発言、画像、動画など）
 - 以前から気をつけていた
 - 授業を聞いて気をつけるようになった
 - 今も気にしていない
 - 利用していない
- SNS との今後の関わりについて
 - より深く関わると思う
 - 今と変わらないと思う
 - 減らす方向で考えている
 - 辞める方向で考えている
 - 利用していない

- 講義開始後にインターネットで経験した（被害を受けた）トラブルについて ※複数回答可
 - SNS などでの書き込み炎上
 - 書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめ
 - ウイルス感染
 - 個人情報の流出
 - 不当請求（ワンクリック詐欺など）
 - 誘い出しによる性的被害や暴力行為
 - ネット依存による健康被害
 - その他
 - 経験がない

4.2 調査結果と考察

以下に授業後アンケートの調査結果を示す。なお、アンケート調査の回収率は授業前アンケートと同様に 100 % であった。

4.2.1 設問 1 と 2

設問 1 「インターネットでの著作権や情報倫理について」と設問 2 「職業の情報倫理について」の調査結果を図 8 に示す。授業前アンケートでは知識の有無についての確認をしたが、授業後アンケートでは講義による知識の定着や意識の改善がみられるか、といった授業効果について調査を行った。設問 1 において、「以前から気をつけていた」と「授業を聞いて気をつけるようになった」を併せると 99.0 % となり、一定の授業効果が認められた。しかし、「今も気にしていない」が 1 名おり、トラブルが起きることへの不安が残る結果となった。

また設問 2 では、学生が歯科技工士、歯科衛生士のプロフェッショナルとして職業の情報倫理を理解し、遵守していくことができるかどうかを問うている。授業前アンケートでは「知らなかった」が 12.9 % いたが、「理解している」が 100 % という結果になり、授業効果が確認できた。

4.2.2 設問 3 と 4

設問 3 と設問 4 「SNS へのアップ内容と今後の利用について」の調査結果を図 9 に示す。設問 3 のアップロードする内容については、「以前から気をつけていた」と「授業を聞いて気をつけるようになった」を併せると 99.0 % となり、設問 1 とほぼ同様に一定の授業効果が認められた。しかしこの設問でも、「今も気にしていない」が 1 名おり、トラブル発生への不安が残った。また、設問 1 で同じ回答した学生と本設問の学生は同一人物ではなかった。

設問 4 では学生自身が今後、SNS に対する使用スタ

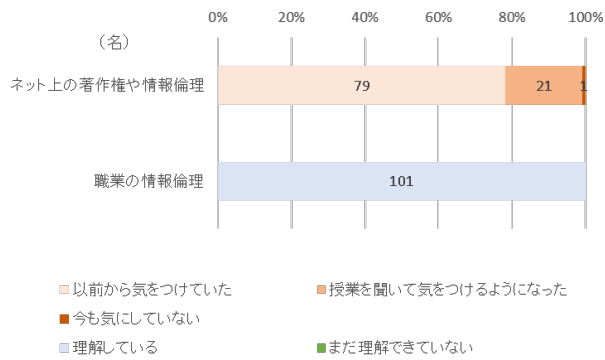


図8 ネット上の著作権や情報倫理と職業倫理への意識（授業後）

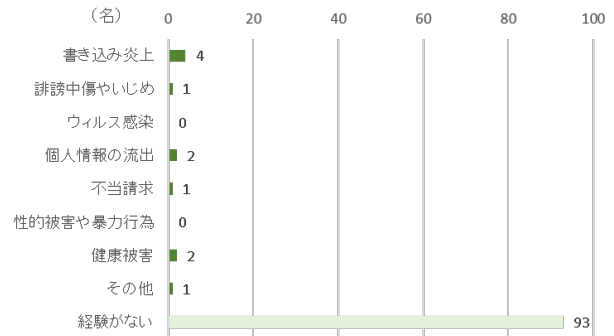


図10 インターネットで経験したトラブル（授業後）
※複数回答可

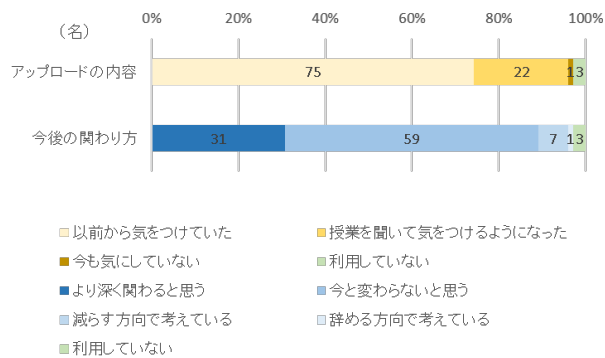


図9 SNSへのアップ内容と今後の利用について（授業後）

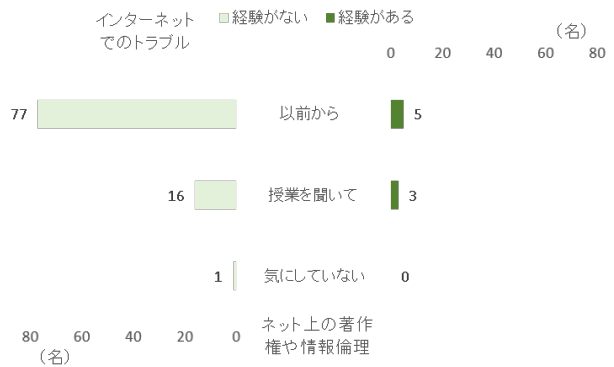


図11 ネット上の著作権や情報倫理とインターネットでのトラブルとの関係（授業後）

イルがどのようになっていくと考えているのかを調査した。結果は「より深く関わると思う」が30.7%、「今と変わらないと思う」が58.4%で、SNSの利用を継続する方向で考えている学生が全体の9割となった。一方、「減らす方向で考えている」が6.9%、「辞める方向で考えている」が1.0%で、「利用していない」学生を含めると1割の学生はSNSと距離を置こうとしているのが伺える。

4.2.3 設問5

設問5「講義開始後にインターネットで経験した（被害を受けた）トラブルについて ※複数回答可」の調査結果を図12に示す。授業前アンケートを実施した日から僅か2か月程度しか経過していないが、この期間中に何らかのトラブルを経験した学生は7.9%（8名）で、このうち複数回答者が3名もいた。これら複数回のトラブルに遭っている学生は、偶然であるかもしれないが、「トラブル慣れ」をしている可能性もあり、授業外や他の科目でも情報倫理を遵守する重要性を伝えていく必要があると考える。

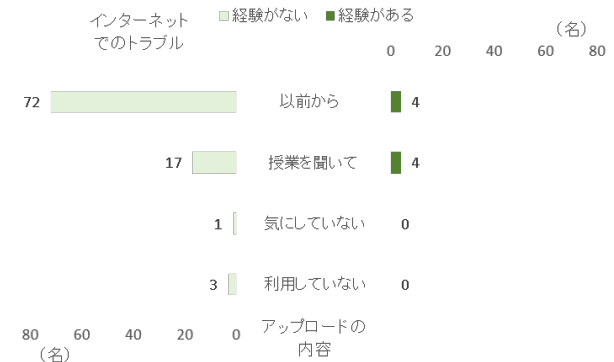


図12 SNSへアップロードする内容とインターネットでのトラブルとの関係（授業後）

4.2.4 設問間の関連性について

設問1と設問5との集計結果を図11に示す。また、設問3と設問5との集計結果を図12に、そして、設問4と設問5との集計結果を図13に示す。

授業後アンケートの分析では設問1、3、4と設問5との間に相関関係があると仮定し、クロス集計後、各々の関連性についてカイ2乗検定を用いて検定したが有意差は認められなかった。この傾向は授業前アン

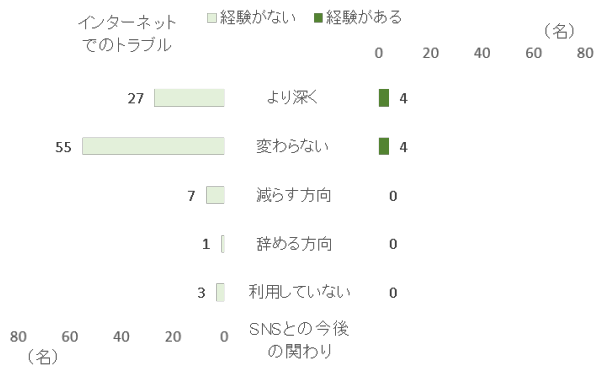


図 13 SNS との今後の関わりとインターネットでのトラブルとの関係 (授業後)

ケートでもみられたが、著作権や情報倫理への意識、SNS へアップロードする内容や SNS の利用スタイルが直接インターネットでのトラブルに結びつくわけではないということが分かった。

5 まとめ

今回は、職業の情報倫理、SNS の利用状況、インターネットでのトラブルとその関連性を主に取り上げた。また、アンケート調査の結果、本学の学生が遭遇したインターネットでのトラブルの有無と種類を把握することができたが、遭遇に至る経緯や心理状態のような内容については未調査であり、今後の課題としたい。

新たな時代のコミュニケーションツールとして台頭してきた SNS は、情報の伝達や交換という点では非常に便利であるが、利用者の未熟な振舞いに対してフォローするような機能はなく、そのアップする内容に対して大きな責任を負っていることを利用者が認識していない場合でも、容易に利用できてしまうことに問題があると考えられる。医療に限ったことではないが「職務上知り得た情報は外部に漏らさない」といった職業の情報倫理は周知徹底する必要がある、医療では患者のプライバシーを守るためにも大変重要なものである。情報リテラシーコースでは ICT に関連した講義内容がその大半を占めるため、情報倫理教育の場としてうってつけのコース (科目) である。時代の流れを鑑みると、情報倫理に重きをおく講義内容へシフトさせる方が、より効果的にトラブルを防止できるのではないかと推察している。また、このようなアンケート調査の実施は、学生自身に ICT の利用について振り返る機会を与え、注意喚起の効果もあると考えている。

今回のアンケート調査方法については冒頭でも述べた通り、従来の質問紙形式から web 形式に変更して

いる。web 形式の採用については、本学への LMS の導入が大きな要因ではあるが、質問紙形式では実現が困難で便利な機能を web 形式が備えている点に注目したからである。導入して最初に感じたメリットは、データの集計が格段に速く正確であるということに尽きる。まさにリアルタイムであり、調査中も集計画面 (web ページ) をリロードすることにより、回答の進捗状況を随時確認することができた。そして、設問の回答結果により、以降の設問を条件分岐させられる点も素晴らしい機能のひとつである。さらに「必須回答」のオプションを有効にすることで、未回答を防ぐことができる点も質問紙には無い利点である。また、欠点に関しては今回利用した範囲では見当たらず、今後も積極的に活用する予定である。

参考文献

- [1] リクルート進学総研. 高校生の WEB 利用状況の実態把握調査 2013, 2013. http://souken.shingakunet.com/research/2013_smartphonesns.pdf (2017/6/13 アクセス).
- [2] 岩田健悟, 赤間亮一, 他 4 名. 歯科医学教育における情報リテラシー・コースに対する学生の反応-歯科技工士・歯科衛生士編-. 日本歯科大学東京短期大学雑誌, No. 2-2, pp. 92-98, 2013.
- [3] 総務省. インターネットトラブル事例 解説集, 2009. http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/pdf/1-1_b.pdf (2017/1/27 アクセス).
- [4] 総務省. 平成 27 年版情報通信白書 SNS の利用率, 2017. <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242220.html> (2017/6/13 アクセス).
- [5] 赤間亮一, 辰己丈夫, 他 2 名. 情報リテラシーコースにおけるアンケート調査の考察. AXIES2016 論文集, 2016. <https://drive.google.com/a/ndu.ac.jp/file/d/0B4FSZg88BNhuWUI1UGlQeVltTHM/view?usp=sharing>.